

学校法人滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校
2025 年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2025 年 5 月 26 日(月) 13:30-15:30

場所：北海道ハイテクノロジー専門学校 第 5 校舎シミュレーションセンター

参加委員は以下の通り

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	佐伯 聡	株式会社 フロンティアサイエンス	代表取締役社長
保護者代表	鈴木 弘美	在校生の保護者	
高等学校関係者	大場 真哉	帯広大谷高等学校	教諭
地域関係者	早坂 貴敏	近隣関係者	北海道議会議員
業界関係者	白川 努	株式会社 サン格林太陽園	執行役員
業界関係者	上見 崇	斜里地区消防組合消防本部	次長

事務局出席者は以下の通り

氏名	所属	役職
佐藤 俊	北海道ハイテクノロジー専門学校	学校長
下山 記弘	北海道ハイテクノロジー専門学校	事務局長
早坂 正利	北海道ハイテクノロジー専門学校	教務部長
佐々木 謙一	北海道ハイテクノロジー専門学校	AI ビジネス学科設立準備室長
上野 正博	北海道ハイテクノロジー専門学校	産学・高専連携センター長

1. はじめに

学校長佐藤より挨拶。

2. 委員会の概要

職業実践専門課程や学校関係者評価委員会の目的について、新任の挨拶とともに事務局より説明がなされた。

●評価委員会議事の結果について●

1. 教育理念・目的・育成人材像について事務局より説明がなされた。

概要：全国初の救急救命士の養成校として、学生消防サポーターによる市民への防火イベントや広大な土地を利用したドローン教育に取り組んでいる。また、企業から依頼された制作物の作成やeスポーツ大会企画・運営、企業連携によるスマホ教室など産官学協働教育を柱とした教育環境を整備している。

スポーツトレーナー業界の変化に合わせ、データを成果に繋げていくためにスポーツ鍼灸アナリスト学科へと学科名を変更し、データアナリストとしての教育を導入していく。

2. 学校運営について事務局より説明がなされた。

概要：学校運営については学校全体、部署単位、個人単位での目標をそれぞれ定め、達成度に対して評価がされる仕組みとなっている。また業務の効率化を図るために、業務システム・Garoon・box・Microsoft 365 を使用しグループ内の情報共有を図っている。

- ・下山事務局長より佐伯様へ組織全体が同じ目標を理解し一丸となるための工夫について質問（佐伯様）

大切な事、伝えたい事は全社員対象に(50 数名の社員)会社の全員が見える場所に掲示している。グループ会社の本社は福岡で、コロナ前までは事業所 5 つ 850 名位の社員が福岡に集まり、会社の理念や方針が話されていた。しかし、浸透させるというのはやはり難しい。その他は各部門の部門長から方針などを聞き人事考査に取り入れている。

3. 教育活動について事務局より説明がなされた。

概要：年 2 回開催している教育課程編成委員会でのご意見や評価、業界の方や講師などからヒアリングを実施し、カリキュラムや教育内容に反映させている。教育内容を変更させているスポーツ鍼灸アナリスト学科では、DARTFISH の企業の意見を受けながら、スポーツ分析に関わるカリキュラムを作成している。

学習成果の把握としては、学生の研究や取り組み、製作物などは学習成果発表会にて発表を行い、優秀者は表彰の対象としている。その他にも、IT メディア学科の学生が 2024 年度セキュリティに対する攻撃と防御の両方で競うコンテストである「Capture The Flag」の大会に出場し実績を残している。(TSG CTF・・・日本 5 位、総務省 CTF・・・個人 25 位)

資格や免許の取得の指導体制については、長期履修制度、国試対策センターと連携した成績分析、リスタートセンターによる卒業後のフォロー体制、J Career School サイトを活用した、卒業後の学び直しコンテンツについて説明を行った。

4. 学修成果について事務局より説明がなされた。

概要：就職率と救急救命士学科としての就職の課題感、課題解決のための就職支援プログラムの内容について報告。国家試験結果の報告と課題となった国家試験の分析結果と2025年度の対策について報告を行った。

5. 学生支援について事務局より説明がなされた。

概要：地方消防への新たな就職対策の取り組みとしてWeb説明会やインターンシップを実施した。退学率は昨年と比較し大きく改善できた。特に救急救命士学科での退学者に大きな改善が見られたことから、救急救命士学科の改善までの取り組みについて報告。

留学生のフォロー体制として、英語・中国語を話せる職員を採用した。留学生の増加に伴い2025年度からは留学生サポートセンターの組織を設立し対応を図っていることを報告。

学生・保護者の学費支援相談も現在はLINEなど、電話以外での相談も増えてきていることからLINEの他、オンラインでも気軽に相談できる体制を整えている。

課外活動については、昨年度の実績の他、新しく設立するサークルについて報告を行った。

卒業生への支援体制については、卒業後の学び直しができるコンテンツや鍼灸師としての開業支援、救急救命士学科の卒業生支援プログラムを紹介した。

上見委員よりご意見

消防現場に入職した方は入職前のイメージと異なる仕事内容にモチベーションを下げってしまう傾向があるため、ハイパーレスキューなど卒業生向けに現場で役立つ会を開いてもらえると、入職後のモチベーション向上に繋げることができるので是非実施して欲しい。

白川委員より入学している留学生数についてご質問

留学生数と国籍について説明

6. 教育環境について事務局より説明がなされた。

概要：2024年度に実施した学校全体の防災訓練内容について説明。避難訓練だけではなく、有事の際の煙の中での移動や消化体験も同時に実施を行った。また学園として導入している安否確認システムも同時に活用し、有事の際の安否確認の流れについて把握できる環境を提供した。

7. 学生の募集と受け入れについて事務局より説明がなされた。

概要：職業認知の一環として高校内での職業体験や説明会を実施している、入学生数については

課題感の残る結果となったため学校一丸となり対策を講じている。

。

・大場委員よりご意見

高校生も何がしたいのか？どこに行きたいのか？を分からない子がたくさんいる。専門学校側でこのように進路ガイダンスをしてもらえると、我々も進路指導をしやすい。

8. 財務について事務局より説明がなされた。

概要：財務状況と監査は学校ホームページにて情報を公開している。

9. 法令等の遵守について事務局より説明がなされた。

概要：個人情報保護の体制については TRUST-e を取得し、その内容についても学校ホームページにて公開している。IT リテラシー向上を目的に、全学生及び職員が IT リテラシーテストを毎年実施している。

10. 社会貢献

概要：高齢者向けのスマホ教室やセキュリティ、LINE 教室など IT 教室の実施、健康支援活動、市民への防災訓練、近隣小学校内での SNS リテラシー授業など学生の学びを活かした社会貢献の事例をご報告。また、北海道ハイテク AC アカデミーの紹介と実績をご報告。

国際交流では、義肢装具士学科の海外研修内容を報告。インドネシアでの海外研修として義肢装具士として有名な Ottobock 社の訪問やインドネシアの義肢装具士養成校での合同授業を実施した。ボランティア活動についてはマラソンサポートやドローンを活用した害獣駆除、ロボット教室など 2024 年度の取り組みの一例を紹介した。

11. 全体を通してご質問・ご意見

大場委員：少子化の影響は、専門学校だけではなく高校側での課題にもなっている。是非今までと同様に高校との連携を大切にしてください。

佐伯委員：人口減少の影響は学校側だけではなく我々企業側にも影響が出ている。学生からすると企業は選びたい放題になっている。そのために企業としても差別化も大事になってきている。

鈴木委員：最近は国立大学を狙える学生でも自分の進路が明確で専門学校にすすむ学生も出てきている。大体の場合は高校の先生に大学を勧められるようだが、大場先生のようにその子の進路に合わせて専門学校を勧めてくれる方が増えると良いと思う。

早坂委員：ハイテクで予定している同窓会が PR 活動の場になれば良いと思う。

白川委員：同窓会 13000 人って数字は本当に素晴らしいことだと思う。私は 3 年前から AI スマートアグリ学科に関わっている。どの産業も人口が減ってきていると思うがハイテクでは引き続き農業の

分野に関わっていただきたい。

上見委員：ハイテクの救急救命の環境はとても素晴らしい環境である。私もこの卒業生であるが、この環境はとてもうらやましく感じる。私も JPtech のセミナー指導もしていますので、今後ともよろしく願います。

評価表に評価を記入していただき閉会 15:30

学校法人 滋慶学園
北海道ハイテクノロジー専門学校

学校長 佐藤 俊

